

**令和7年度（2025年度）第3回
八王子市社会福祉審議会 地域福祉専門分科会 議事録**

日時・会場		令和7年（2025年）11月4日（火）14:00～16:00 八王子市中町8-4（旧矢島染物店）
出席者	委 員	黒岩 亮子（日本女子大学） 島崎 誠（八王子市民生委員児童委員協議会） 上村 晃一（市民委員） 石井 修一（八王子市町会自治会連合会） 齋藤 健（八王子市民活動協議会） 下島 宏文（市民委員） 西田 佳子（八王子市社会福祉協議会） 丸山 風姫（市民委員） 室田 信一（東京都立大学） 山下 晋矢（八王子市医師会）
	市職員	小池 明子（福祉部 生活福祉担当部長） 元木 博（福祉部 福祉政策課長） 辻野 文彦（福祉部 福祉政策課主査） 白石 利和（福祉部 高齢者いきいき課長） 櫻田 ひかり（福祉部 障害者福祉課長） 小俣 英一（福祉部 生活自立支援課長） 志村 慶太（健康医療部 健康づくり推進課長） 原 清（子ども家庭部 子どものしあわせ課長）
欠席委員		菅野 匠彦（福祉部 部長） 中山 あずさ（健康医療部 健康医療政策課長）
次 第		1 開会 2 議題 振り返り・今後の事業推進に向けた検討～地域と行政との有機的なつながり～ 3 閉会 4 その他
公開・非公開の別		公開
傍聴人の数		なし
資料		・次第 ・第4期八王子市社会福祉審議会地域福祉専門分科会委員名簿（R7.4.1時点） ・【資料1】振り返り・今後の事業推進に向けた検討～地域と行政との有機的なつながり～ ・ことこ通信（2025年9月30日発行）
会議の要旨		
元木課長 黒岩会長		【1 開会】 <元木課長より挨拶> <黒岩会長より挨拶>

	<p>【2 議題】 振り返り・今後の事業推進に向けた検討～地域と行政との有機的なつながり～ <【資料1】に沿って福祉政策課 辻野主査から説明></p> <p>これまでの市の施策を踏まえ、今年度から市と民間事業者とで孤独孤立プラットフォームの設置及び運営に関する協定を結び、今後は本会場を拠点として様々なイベントやワークショップなどを展開する「ことこプロジェクト」を進めていくところである。本拠点は常設の居場所として設置する予定であるが、住民と公的機関（支援）とをつなぐ“ハブ”となるために必要な機能や仕組みは何か（情報を受け、この場とつながりたい、と感じてもらう当事者へのアプローチも含めて）、本日の議題として議論したい。</p> <p>また、日常生活の動線に近いこの場の利点を生かし、早期発見・支援へのつなぎに向け、既存の社会資源（公的な機関でないインフォーマルな資源）や、公的な仕組み（はちまるサポート、地域包括支援センター等）と有機的につながる（活動や仕組みが連動する）ためには、どうすればよいか皆様の御意見を頂きたい。</p>
辻野主査	<p><質疑応答></p> <p>居場所について、駅前で立地が良く、孤独・孤立に対して良い取り組みである。しかし、郊外に住む住民のアクセスも考慮し、別拠点として市民センターの活用も積極的に検討いただきたい。郊外でも孤独・孤立や孤独死の課題は深刻で、自身の近隣地域でも最近孤独死の事例があったが、町会や自治会へ情報共有がないと感じている。</p>
石井委員	<p>個々の場を通じて、市民センター等の活用や、既存の取り組みも活かせるつくりになるとより良い。情報共有については、市としてどのようにお考えか。</p>
黒岩会長	<p>町会や自治会への情報共有については市でも課題であると認識しているが、個人情報は厳しい取扱いが必要であり、別途改めて検討したい。</p>
元木課長	<p>はちまるサポートや各事務所などあるが、業務が縦割りであると感じるため、もう少し横ぐしを刺すような組織運営をお願いしたい。</p>
石井委員	<p>【資料1】P3の多機関協働事業について、メンバー構成や運営についてお聞きしたい。</p>
上村委員	<p>各機関から相談のあったケースについて多機関協働の視点で解きほぐし、必要に応じて支援会議を開催している。個別ケースごとに会議を行い、参加者としてはちまるサポートやこども家庭センター、保健所、廃棄物対策課などケースに応じて、必要と考えられる関係機関をその都度招集している。多機関協働に寄せられる相談は複雑化した事例がほとんどで、終結に至るケースは少ないが、関係機関同士の顔が見られる場、関係性の構築などに意義があると考えている。</p>
西田委員	<p>【資料1】P9のように孤独・孤立の深刻化の予防や、孤独死や多機関でのケースのお話もあったが、重症化する手前の段階でどうつながるかが重要であり、この居場所が悩んでいる人の新しい居場所になると良い。</p>
黒岩会長	<p>孤独・孤立に関わるNPOについて、八王子市民活動協議会や八王子NPOハンドブックの中にも孤独・孤立に関わる取り組みを行っている団体が多くいる。そう</p>
齋藤委員	

	いった団体とつながることも大切である。
黒岩会長	本会議でもそのような NPO の周知が出来ると良い。
島崎委員	<p>【資料 1】P3のはちココについて、相談件数の実績が多いと感じた。人に聞かれてたくない内容でも匿名で AI 相談員に 24 時間相談できるなど、有人窓口にはない利点があり、自殺の多い世代である 40 代 50 代からの相談件数も多いことから有効であると思う。</p> <p>はちまるファーム、はちココなど最悪の事態にならないために様々な入口を用意し、孤独・孤立を感じている人がどこかに引っかかれば良いと思う。</p>
山下委員	はちココは有効であると思う。生成 AI の技術は進歩しているため、予め様々な AI 相談員のパターンを用意し、相談者の要望に応じて相談員の性別や年齢などを選択できる仕様になるとより良いのではないか。
辻野主査	はちココについては導入費用を令和 8 年度予算にて要求を行っており、本格導入できるように検討中である。
山下委員	八王子市は人口も多く、高齢化率や抱える課題に地域差があるため、まず中心市街地のこの居場所から進めて、今後は地域のニーズを把握しつつ事業を展開できるとよい。
下島委員	10 月 21 日に開催されたワークショップに参加し、関心がある民間企業は、自分に何ができるのかを模索している印象を持った。本プロジェクトは、早期発見・支援も目的と認識しているが、健康に留意する必要のある方ほど健康には興味のない方が多く、個人の主体性に任せている。主体的でない方をどのようにつなげていくのかが課題であり、事業のターゲットを絞る必要があると感じている。孤独・孤立は客観的に数値で判断することが非常に難しいため、客観的に定量化できる基準を決めて、ターゲットを絞って事業を展開できると良い。
上村委員	八王子市高齢者計画・第 8 期介護保険事業計画の調査結果などを用い、地域ごとにクロス集計できないか。
辻野主査	令和 8 年度に第 4 期地域福祉計画の中間見直しを行う予定があるので、参考にしたい。また、協定を結んでいる NTT 東日本(株)はデータ分析も得意としているので、活用していきたいと思う。
室田委員	<p>居場所について良い取り組みで今後が楽しみだが、2 点質問がある。</p> <p>まず、スライド 24 の「有機的なつながり」について、有機的につながるということは関係者が相互に手をつないだ状態と考えられるが、自然にはつながらないため、有機的な状況にもっていくコーディネートの戦略が重要である。</p> <p>2 点目は、居場所は有料で借りているということだが、市の資源はどの程度今後つぎ込めるのか。他の居場所を開設するとなった場合に、市として運営方法や使用できる資源について明確化することも必要と感じる。例えば京都市では、地域住民が資金を出し合って小学校運営に携わっている事例もある。</p>
黒岩会長	コーディネートの戦略が重要とのことだが、ここプロジェクトではまちづくり八王子のコーディネーターが入ったことで進んだと伺っている。今後どのように

	に広げていくか、本会議で検討していただきたい。
丸山委員	ワークショップやボランティア等面白いと思う。一方で学生生活の中で、そういう取り組みを知る機会が少ない。より効果的に学生に働きかけることが出来ると若者が良いアイデアを出してくれるのではないか。また、入学直後に働きかけことで、学生の孤独・孤立対策にもつながるのではないか。この居場所では、八王子市の名物を持ち寄って食べる会やSNSの発信等など面白いのではないか。
西田委員	この居場所は1号店になるので、少ない資源で有機的なつながりができる取り組みが出来ればと思う。
上村委員	まずはこの居場所を様々な関係者へ広げ認知度を上げることが重要なため、民生委員・児童委員の会議をこの居場所を活用して開催するなど、様々な使い方が出来ればよいと思う。
斎藤委員	NP0の代表者を集めて、会議を行うと良いのではないか。
元木課長	皆様の様々なご意見に感謝する。次回はこれまでの議論を踏まえ、第4期地域福祉計画の中間見直しについて御意見を頂きたく、協力をお願いしたい。
島崎委員	【3 閉会】 孤独・孤立の問題や早期発見・予防の観点から、生成AIの利用などが重要であると感じた。ゆるやかなつながりを築けるようにしていただきたい。
黒岩会長	【4 その他】 次回は2月16日（月）13時から15時に開催予定。
議事録署名人	黒岩 亮子